

市政専門図書館所蔵資料展示会

美しい都市をめざして

—風致地区・都市美・都市景観—

本館所蔵資料から、都市景観等に関連する資料を展示します。

- 風致地区の指定、風致の維持管理
- 都市美協会等による都市美運動の動向
- 近年の都市美・都市景観等に関する調査研究

(洗足風致地区)

雪の洗足池



2017年11月30日(木)- 2018年1月12日(金)

9:30-17:00

(休館日：土曜・日曜・祝日・年末・年始)

会場：市政専門図書館 展示コーナー 無料

展示資料

1

「田園都市」

内務省地方局有志編 博文館 1908.05.

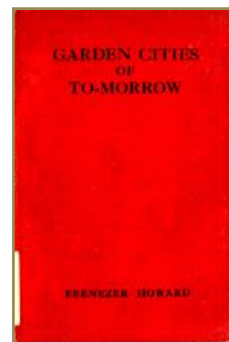
本書前半では欧米各国における田園都市の事例や、住民による生活環境向上への取組みなどが紹介されている。後半になると欧米諸都市の社会事業政策の紹介がメインとなり、節酒の奨励、教育施設や娯楽施設、救貧防貧事業等について述べられている。なおハワードの田園都市構想に関しては、本書第1章や2章で部分的に触れているのみである。

2

「Garden cities of to-morrow」

Ebenezer Howard Swan Sonnenschein 1902.

イギリスの産業革命は重工業の発展と共に、都市の住環境悪化や貧困の拡大をもたらした。こうした事態を憂慮したハワードは、田園都市（Garden city）構想を提唱した。この構想は都市近郊に人口数万規模の町を建設して職住近接を実現すると共に、町に森や公園や農地を配して住民に良好な自然環境を提供することを旨とした。また全ての住宅を賃貸とすることで、労働者が収入に見合った家を借りることができるよう配慮された。



3

「都市の美観と建築」

黒田朋信著 趣味叢書発行所 1914.02.

本書は東京市の著名な建築物に関する批評、感想集である。著者は「建築も美術の一種である」として、立地、構造、間取りといった実用性に加え、装飾や様式、外観といった美的要素を重視する。また、都市の美観には一群となって建てられる小建築も重要であり、小建築群の都市全体との調和が必要なのは勿論、小建築群自体も「一群として」調和がとれていなければならないとしている。

4

「都市計画と都市ノ風致美観」

復興局長官房計画課編 [1926.]

本書は、日本の都市計画法制が「風致美観上の必要から建築取締を為す」ことを一部の例外を除き許していない点を挙げて、「風致美観に関する事項を都市計画の概念から切り離すが如きは大きいなる欠点である」と批判する。帝都復興に関しては「大観すれば正しい方向に進んでいる」としながらも、風致美観については「現在の都市計画関係法規の下では多くを期待出来ぬ」としている。

「植栽日に就て」

都市美協会編 1927.

植栽日とは一年の内一定の日を定めて学校や公庭や路傍等に市民挙げて樹を植えるという習慣で、都市緑化運動にその端を發する。本書は東京や青森、欧米諸都市の植栽日の様子を紹介し、「都市美観の上からよりも寧ろ保健の上から極めて重要視」されているとする。そして、都市だけでなく田園においても「保存を策すべき郷土の自然に一顧を与う」ために、植栽日は必要であるとしている。

「風致地区内に建てる建物の設計方に就て」

東京府土木部編 1933.10.

風致地区とは「美しい風致（景観）を有する区域に対して、永くその自然の風致を保存」するため、都市計画法によって定められた区域である。風致地区内に建物を建てる際は、周囲の景観と調和するよう立地や外観への配慮が必要であり、また風致地区規定など法令による規制を受ける。

「日本都市風景」

椋内吉胤著 時潮社 1934.04.

六大都市から地方中小都市までを取り上げ、各都市の景観について論じた批評・感想集。著者は都市の無計画な西洋化や近代化を批判し、震災復興を成した東京市を「洋風、和風そのいづれともつかないヨタ建築」が大部分を占め「どこか植民地の街らしい落ち着いた感じがなさがある」と酷評する。一方で地方の中小都市に関しては、「近代的造営物で攪拌されず」「特徴をもった事物が保存」されているとして、その街並みを評価している。

「風致地区概要」

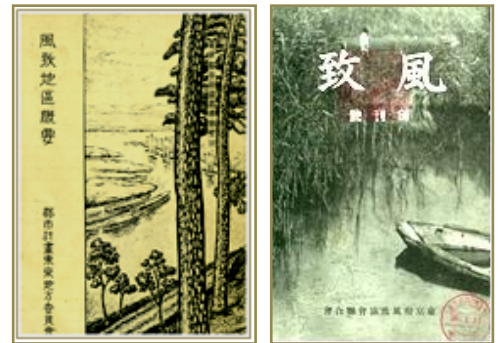
都市計画東京地方委員会編 [1934.]

東京都市計画区域内における風致地区（明治神宮内外苑付近、多摩御陵付近、洗足、善福寺、石神井、江戸川、多摩川、和田堀、野方、大泉）それぞれについての区域・交通・概況を記す。

— 参考 —

「風致」東京府 第1巻第2号～第2巻第7号 1934-1935.

「風致」東京府風致協会連合会 第1巻第1号～第4巻第4号 1936-1939.



「建築の東京 大東京建築祭記念出版」

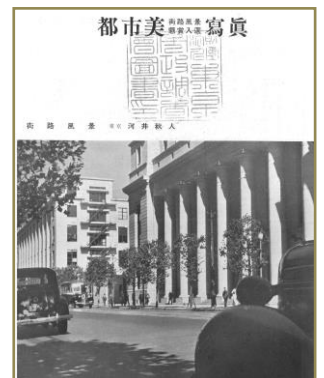
都市美協会編 1935.08.

都市美協会は、大東京の建築美増進と建築文化普及を目的として、昭和10年6月に大東京建築祭を挙行政した。建築文化展覧会の開催や映画の制作等が行われ、本書は記念出版物として刊行された。主に関東大震災以降に建てられた建築物の写真が、その用途によって分類され掲載されている。

— 参考 —

「都市美」都市美協会編 第4号～第18号 1933-1936.

「都市美（復刻版）」橋爪紳也監修 不二出版 第1号～第39号 1931-1942.



「現代之都市美 第1回全国都市美協議会研究報告」

都市美協会編 1937.05.

第1回全国都市美協議会は、昭和12年5月に東京市の清澄庭園で開催された。本書には「現代の都市美」を論題とする35篇の論文が収録され、うち9篇については、協議会当日に著者から報告がなされた。

— 参考 —

「健康都市の建設 第2回全国都市美協議会研究論叢 昭和13年 大阪」大阪都市協会編 1938.05. 3, 193p 22cm

「第2回全国都市美協議会報告書 昭和13年 於大阪」（「大大阪」第14巻第7号附録）大阪都市協会編 1938.07. 8, 90p 23cm

「都市構築に於ける新旧文化調和への理論と実際（第3回全国都市美協議会研究報告）」日本建築協会編 1940. 18, 14p 22cm

「第3回全国都市美協議会（於京都市）」京都市編、都市美協会編 1940.05. 15p 23cm

「東京風致地区改善施設概要 自昭和7年度至昭和12年度」

東京府土木部編 1938.03.

東京府においては、大正15年10月に明治神宮が風致地区に指定されたことを皮切りに、洗足など10箇所が風致地区に指定された。風致地区への来

遊者の増加とともに、樹木の保護や植樹等の風致保護、休憩所の設置等の施設改善が行われた。

12

「都市美と公衆便所（都市美叢書 第4輯）」

大阪市保健部編 1938.05.

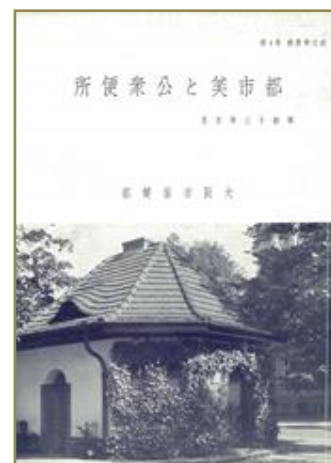
大阪市内の公共便所の改善（水洗浄化等）と増設は、大阪市会など各所から要望されていたため、市は衛生・美観等の点から、対策事業の実施を計画した。本書巻頭には公共便所の写真や設計図案が収録されており、その中には市職員が視察した欧米の便所の写真も含まれている

参考

「都市美と緑化に就て（都市美叢書 第1輯）」 大阪市保健部編 1938.05. 42p 23cm

「都市美と河川浄化に就て（都市美叢書 第2輯）」 大阪市保健部編 1938.05. 21p 23cm

「都市美と煤煙防止に就て（都市美叢書 第3輯）」 大阪市保健部編 1938.05. 36p 23cm



13

「河川の浄化と都市美」

全国市長会編 1959.02.

都市の河川は、排出される下水・塵芥・産業廃棄物等により、自然の浄化力の限界を超え、酷く汚染されてしまっていた。その改善のために、水質保全本法等の制定による規制や、汚染源を処理する施設の整備等が進められている状況を提示し、今後の方向性を示唆する。また、河岸の美化対策についても一章を割いて解説している。

14

「オリンピックを迎える東京」

東京都オリンピック準備局編 [1960.]

東京オリンピックへの準備として、高速道路や地下鉄等都市インフラの整備が進められたが、それと同時に屋外広告物の規制等の都市美観の改善や、煤煙防止等の環境対策も行われた。



15

「諸外国における都市美化推進に関する実態調査」

東京都生活文化局企画部編 1982.03.

東京都は、昭和56年に東京都都市美懇談会を設置し、都市美に対する検討を行ってきた。ニューヨークやロンドン等欧米の諸都市における都市美推進や都市景観の保護等の歴史的経緯、都市計画事業の現状等についての実態調査を行った。

16

「都市美・都市景観の創造（昭和56年度研究チームC報告書）」

神奈川県自治総合研究センター都市美・都市景観の創造研究チーム編 1982.09.

神奈川県内の地域や都市形成過程等が異なる3都市（藤沢市・小田原市・座間市）でのケーススタディとそこで提起された7つの課題を検討することにより、これまでの開発行政においては配慮に欠けてきた都市美・都市景観の問題に対して、条例の制定や市民との協調等改善に向けての提言を行う。

17

「東京の都市美をめざして 都市美ガイドライン作成調査報告 その1-東京都都市美対策専門委員会-」

東京都生活文化局コミュニティ文化部振興計画室 [編] 1986.08.

東京都の都市美ガイドラインを作成するための調査報告書。江戸から東京への移行、震災・戦災からの復興、高度経済成長、バブル経済期の活発な土地利用などによる景観の変遷を踏まえ、外見的な美のみならず、生活や活動をする人にとって快適な東京を目指すとしている。

18

「ケーススタディから都市美を考える 都市美ガイドライン作成調査報告 その2-東京都都市美対策専門委員会-」

東京都生活文化局コミュニティ文化部振興計画室 [編] 1986.08.

都市美の基準は多様であり一義的ではなく、特に東京には多面的な顔があるのではないかとこの立場から、東京の中の代表的なまちを選んでケーススタディを進めた。下谷・根岸・日暮里地区、尾山台・玉堤地区、蒲田駅周辺地区、豊田南地区の4か所である。

19

「東京の景観構造 都市美ガイドライン作成調査報告 その3-東京都都市美対策専門委員会-」

東京都生活文化局コミュニティ文化部振興計画室 [編] 1986.08.

東京全体にわたる景観の特性調査をしたもの。歴史からみた景観、自然や交通網からみた景観、生活と風景などの観点から尊重すべき景観要素を示す。

20

「都市美：都市景観施策の源流とその展開」

西村幸夫編著 学芸出版社 2005.05.

欧米諸国の都市美の理念の源流を探り、美観規制の成立過程を明らかにしている。日本の風景認識の変遷を辿り、都市美のあり方を考察する。

21

「都市美協会運動と椽内吉胤」

酒井憲一著 東京農業大学出版会 2008.12.

椽内吉胤は、わが国の都市美運動の萌芽である大正末期・昭和初期において活躍した都市美運動家である。彼は、都市改良運動団体である都市美協会を立ち上げた人物でもある。都市美協会運動は当時、欧米に追従するのではなく、市民生活の向上に重点をおいた主体的、先駆的な都市計画が進められた。今日の都市計画における手法や都市景観などの礎ができた。本書は、景観法時代における政策と生活充実のため、かつての日本の都市美運動を社会に伝え、未来を築く知恵を学んでいくことを目的としている。



22

「都市美運動 シヴィックアートの都市計画史」

中島直人著 東京大学出版会 2009.02.

これまで、都市計画史の研究領域において、都市美運動にあつたとする「都市計画に対する改革の理念や実績」についてはほとんど言及されてこなかった。このようなことから、都市美運動は「物的環境に直接働きかける運動」として捉えられていた。また、現在、景観法制定を機に、市民団体による景観づくりへの取り組みも盛んになっている。都市美運動も市民の自覚を促す啓蒙活動を重視しているが、いかなる理念のもとで人々の参画を促すものであつたのか。本書は、以上のような視点から都市美運動の理念と実態を整理し、評価したものである。

23

「復興建築の東京地図 関東大震災後、帝都はどう変貌したか」

平凡社編 2011.11.

関東大震災が起きた大正12年9月1日の翌日から、市民は焼野原となった帝都の立て直しをはじめた。7年後の昭和5年3月、国をあげ「帝都復興祭」が催された。本書は、未曾有の大震災によって焦土と化した東京の再出発を担い街のシンボルとなった往時の東京の面影を伝える「復興建築」など10のテーマ別に、写真を主にして東京の街の変化を紹介したものである。

24

「日本人の景観認識と景観政策」

土岐寛著 日本評論社 2015.05.

平成16年の景観法制定以後、美しいまちづくりが大きな流れとなっている。日本の都市は電線・電柱や野放しに設置される自販機など美的調和がなく、依然として計画性や整合性がない。一方、ヨーロッパ諸国では第二次世界大戦後、都市空間に誇りを持つ市民が破壊された都市を多くの時間と費用をかけた復元した。本書は、ヨーロッパ諸国との都市空間に対する視点から、日本人の自然観や景観認識を考慮しつつ、あるべき日本の景観政策について論じたものである。

25

東京都市計画公園、美観並風致地区及市場、屠場図

東京市都市計画部編 1933.

26

京都都市計画街路・区画整理並風致地区図

京都市土木局編 1934.

27

名古屋都市計画公園並風致地区配置図 附. 小公園配置図